

こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告
ご意見など、ぜひお寄せ下さい。

< No.296 2016.11.9 連絡先 402-1622 >

農業だけじゃない！TPP 30章にも及ぶ内容 TPP承認案・関連法案は廃案に！！

食べ物はもちろん化粧品でも、身体のことを考えるとより安全なものを選びますよね。TPPではその安全性が商売の妨げになるとして認められなくなりかねません。すべての人の健康に影響を与えることになるのがTPPなのです。

食の安全：遺伝子組み換え食品について、安全性より貿易の拡大が課題とされています。農薬や添加物の基準も含め、将来のリスクに配慮した「予防原則」にもとづく、国民の健康を守るための規制は困難になります。

医療：薬価をきめる審議過程に、外国企業が口出しできる仕組みが作られ、米製薬企業の言い値の高い薬価が押し付けられる場になりかねません。安い医薬品が手に入らなくなるのは必至です。

金融・保険：「保険」が金融の一つとなり、かんぽや共済（JA共済、県民共済など）にも利潤第一の経営が求められ、相互扶助の機能が失われます。

公共事業：「内外無差別の原則」にもとづき、外国企業への開放が求められ、地産地消や地場産業への優先発注が困難になります。

ISD条項：外国企業が進出先の政府等の政策・決定で損害を被った（おそれがある）と判断した場合、政府を国際仲裁裁判所に訴え、損害賠償を請求できる仕組み。環境や安全を守る立場からの政府や裁判所の決定が、外国企業から訴えられる事例が増えています。ISD条項は、国民の代表によって決められた社会のルールを、外国の企業によって容易にねじ曲げられることに道を開くものです。TPPが発動すれば、日本が米国の企業などから訴えられ、「国のかたち」が変えられてしまうのは必至といえます。



→ 2012年総選挙時の自民党ポスター

みち子のひとりごと 見えるん？

七五三のお祝いに神戸の娘のところにへ行きました。7歳の女の子、3歳と1歳半の男の子がいます。今回は上の二人一緒に七五三です。お参りの後、借り物の衣装を汚してはいけないと、家に戻って着替えてから食事です。「帰りにお弁当もらって帰るよ」と娘が言うのと、七歳の孫がすかさず「どれにするか決める！」と。「いやいや今日は特別なお弁当だから選ばなくていいんだよ」と娘。普段の生活が垣間見えた笑っちゃった瞬間。

食事後、私が帰りの電車の時間をスマホで確かめていると「どうしてメガネはずして見るん？」と七歳の孫。「は？さんと見えへんのよ」と言っても「ふうん」と納得いかない様子。そうだろうね、メガネって見るためにかけるものだからね。横から娘が、こうしたら大きくなるのにと指でスイッと画面を大きくしてくれました。知っていますよ、そのくらい。知っているけど忘れていた私って…。



七 基本的人権

くうしゅうでやけたところへ行つてごらんなさい。やけただれた土から、もう草が青々とはえています。みんな生き生きとしげっています。草でさえも、力強く生きてゆくのです。ましてやみなさんは人間です。生きてゆく力があるはずですよ。天から授けられたしぜんのかがあるのです。この力によって、人間が世の中に生きてゆくことを、だれもさまたげてはなりません。しかし人間は、草木とちがって、ただ生きてゆくとやうだけでなく、人間らしい生活をしてゆかねばなりません。この人間らしい生活には、必要なものが二つあります。それは「自由」ということと、「平等」ということです。

人間がこの世に生きてゆくからには、じぶんのすきな所に住み、じぶんのすきな所に行き、自分の思うことを言い、じぶんのすきな教えにしたがってゆけることなどが必要です。これらのことが人間の自由であつて、この自由は、けつして奪われてはなりません。また、国の力でこの自由を取り上げ、やたらに刑罰をくわえたたりしてはなりません。そこで憲法は、この自由は、けつして侵すことのできないものであることをきめているのです。

またわれわれは、人間である以上はみな同じです。人間の上に、もっとえらい人間があるはずはなく、人間の下に、もっといやしい人間があるわけはありません。みな同じ人間であるならば、この世に生きてゆくのに、差別を受ける理由はないのです。差別のないことを「平等」といいます。そこで憲法は、自由と一緒に、この平等ということをきめているのです。

TPP「幻想」に騙されるな



TPP（環太平洋経済連携協定）承認案・関連法案が衆議院で強行採決され、論戦の舞台は参議院に。

日本共産党参議院議員団は、与党の暴挙を許さず、徹底審議で問題点を明らかにし、廃案に追い込むため全力を尽くします。

日本のTPP参加はもともとアメリカの要請にこたえて進めてきたものですが、そのアメリカで、TPPは多国籍企業の利益が優先され雇用が奪われて貧困と格差を広げるといふ批判が高まり、大統領候補のクリントン氏もトランプ氏もTPP反対を表明し、どちらが大統領になつても（この原稿が各紙に掲載される頃には確定）、TPP協定が現在の中身のままアメリカ議会で批准される可能性は少ないといわれています。

アメリカがそんな事態に陥っているのに、なぜ安倍政権はTPP法案の採決を急ぐのでしょうか。安倍さんの心中を推測すると次のようなことではないか。「アベノミクスも評判がわるくなってきて賞味期限切れが近い。このまま支持率が下がり総選挙で負ければ憲法改正（改悪）が出来ない。ここはTPPで経済・くらしがバラ色になるとぶちあげ、支持をつなぎとめるしかない。そのためには総選挙前にTPP法案を成立させておく必要がある」

アメリカ国民もTPPが国民に不幸をもたらすものだと思つているのに、日本の国民だけは騙せるとでも思つているのでしょうか。参議院では安倍政権がふりまいているTPP「幻想」を打ち砕く論戦を展開したいと思つています。

参議院議員 大門みきし

川柳 大野啓子さん
 言えませぬ 大学出たが 派遣とは
 ぬり薬 開発急げ 安倍さんに
 野良犬と 互いの安否 確認す



第40回 「市高テパート」開催

11月19日（土） 9:30 ～ 14:00
 20日（日） 9:30 ～ 12:30

和歌山市立和歌山高等学校
 体育館および東玄関周辺 校庭

日常生活用品を中心にマグロの解体、即売も交え各種商品を取りそろえ、オリジナルキャラクター「いっち」の店舗も加わりました。